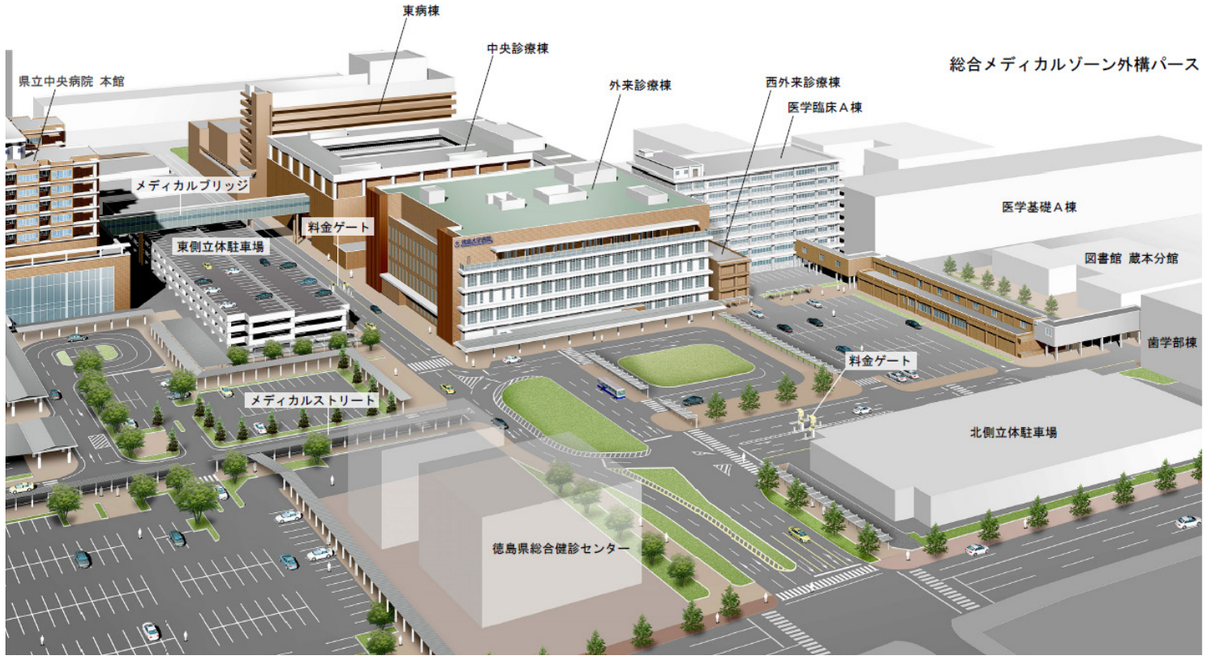
病院

総合メディカルゾーン

総合メディカルゾーン構想は徳島県と徳島大学との間で、機能整備をはじめとした交流を深め、徳島県内医療の拠点として推進することを目的に2006（平成18）年に合意され、連携のための事業を行ってきた。

特に徳島大学病院と徳島県立中央病院の連絡橋であるメディカルブリッジを利用した両病院の連携は、全国にも類を見ない特徴と利便性を有している。2013（平成25）年に建設以来、メディカルブリッジを利用した患者診療の連携が行われているが、今後は両病院の役割分担を明確にし、それぞれの特徴を生かした連携を強化し、お互いの病院の診療・研修内容をよりいっそう向上させることを目指している。

2019（平成31）年2月からは、両病院の患者用駐車場が共同で利用できるようになり、利便性も向上している。



解剖室

準備室

CAL外観

MRI室

CT室

クリニカルアナトミー教育・研究センター

医師・歯科医師を対象とした臨床医学の教育及び研究のための施設として、2014（平成26）年にクリニカルアナトミー教育・研究センターが設置された。

海外では遺体を使用した臨床・基盤研究が多く行われ、新しい知見や医療技術が開発されている一方、日本ではホルマリン固定遺体を用いた卒前の解剖学教育が中心であり、臨床医学の研究を目的とした遺体の使用は実施困難であった。2012（平成24）年に日本外科学会・日本解剖学会からガイドラインが公表され、手技や機器の研究開発、基礎研究などが可能となり、徳島大学病院では未固定遺体を用いた先進的な医療技術の開発及び先端医療・先進医学の研究、高度な手術法の開発とその修得、新たな検査手技の開発、疾患・手術に即した詳細な局所解剖の教育・研究を目的として設置した。

センターは未固定遺体によるサージカルトレーニングに対応でき、X線装置、CT、MRIを完備していることから、高度医療技術の修練や先進医療の研究開発に対応できる施設となっている。